

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.41

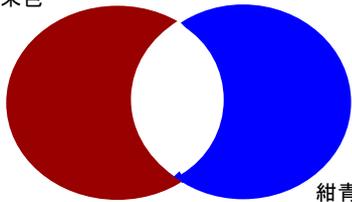
2008-4-26

일한 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者 : 後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 巻頭特別寄稿 | 支援者 : 鄭煥麒 |
| 2. 事務局通信 | 顧問 : 李 尚勳 |
| 3. ニュース | 統括幹事 : 後藤和晃 |
| 4. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 5. 会員の広場 | 事務局 |
| 6. ソウル通信 | 会員の皆さん |
| | 坂野慎治 |

巻頭特別寄稿

会の創立10年を祝う

名誉顧問 鄭煥麒



日韓市民ネットワーク・なごやの後藤総括幹事を始め、会員の皆さん方、会の創立10周年を衷心よりお祝い申し上げます。

「継続は力なり！」と言います。力がなければ10年もの年月、活動を続けることはできません。私はネットワークの皆さんが創立以来、血の通った日韓友好の草の根の運動を実践されているのを自分の目でしっかり確かめてきました。

皆さんは、まず日本と韓国の、古代から今日に至るまでの交流史の真実を知ろうと、日韓の歴史の舞台への検証の旅を、営々と続けてきましたね。その足跡は韓国内ばかりでなく、高句麗の版図に入っていた中国の東北部(旧満州)にまで及んでいました。また日韓の学生のホーム・スティの交換や、日本市民と韓国からの留学生との交流なども地道に積み重ねてきたこと

も知っています。そして40号を数えた会報では、そのつど、日韓の市民や学生が相手の国柄や人を知る喜びが率直につづられていたのが印象的でした。

私は本当に長い間、ひたすら黙々と(上に述べたような)活動をされている皆さんに心から感謝と敬意の気持ちを抱いてきました。さらに、皆さん方の「無駄」と「ソツ」の無い会の運営に頭が下がる思いでいます。

少ない予算で最高の効果を上げていますね・・・金のかかる親善活動は長く続かないことを私はよく知っています。「金の切れ目は縁の切れ目」といいますが、皆さんが実践している地道に友情の絆を結んで行く試みには、そうした不安は全くありませんね。

ネットワークの皆さん、これからの新しい10年を目指し、両国民の真の理解と友好親善のため、より一層の活発な「草の根運動」を展開されますことを大いに期待して筆を擱きます。



「日・韓市民ネットワーク」を10年間支えて下さった後藤さんをはじめ会員の皆様に感謝の言葉をお伝えしたいと思います。韓国語に「10年が過ぎると江山も変わる」と言うことわざがあります。

この意味は皆様もご存知のように10年という時間は江山が変わる程、長い時間という意味合いです。振り替えてみるとあっと言う間でした。当初、会員さんも30-40名で始めましたが今は100名程度となりましたね。多くの行事を通じ、韓国光州・大邱・大田など多くの地域の市民・学生との深い交流ができたことに感謝しております。人と人が場所を超え合うことで、日本と韓国のことが身近くなり、もっと好きになったと思います。韓国光州からの学生の受け入れ、奈良見学、ホームステイ、交流のタベ、百済発見の旅、皆様の色々な業績を考えるとそのように早く過ぎ去った時間が惜しくはありません。

先日、3月20日にあった総会に鄭煥麒会長始め、中日新聞の方など多くの方が出席、祝って下さいました。会を発足した時から共にして下さった皆様が多く参加し、またお久しぶりにお会いする方もいらっしゃって感激を受けまし

た。本当に10年前の集まりが今まで続けられていることに胸がいっぱいでした。

ある日、役員の方から相談がありました。力なくし「いつまで続けられるかわかりませんね」と会を続ける大変さや会の方向性を見出すことの難いさで悩んでいました。その時、私は頭が真っ白になって「これ以上会を続けるのは難しいか」と一瞬思いました。どんな言葉で励ますか、分らず聞くだけでした。何一つ力になれなくてごめんなさい。それから、もう5年がたちました。色々なことがあったと思いますが、後藤さんをはじめ会員の皆様、また、在日韓国の方の支援があつて今に至っていると存じます。

私自身も10年間、3人の子供のパパとなり、今の大字という会社に移りました。名古屋での17年、振り替えてみて自分にとっての一番の実は「日韓市民ネットワークなごや」の皆様です。

韓国の文化に触れ、韓国の人情にふれ、また、韓国人とのふれあい全てを通して、日本と韓国がもっと近くなることお互いを理解しあうことができる、その一番の先端に「日韓市民ネットワークなごや」が立っていることを今日も夢見ています。この10年間「日韓市民ネットワークなごや」を支え続けて下さった皆さんにここから感謝致します。

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

◎ (1) 創立10年・次なる道は！？

1998年2月7日、言うまでもなく“日韓市民ネットワーク・なごや”が産声を上げた日です。あれから早くも10年の歳月が流れて行きました。当初30数人だった会員が120人となり、韓国に私たちを親しく迎えてくれる交流の拠点がいくつも生まれました。

例年、韓国の学生交流団を招いてのホームステイや会員による韓国への歴史紀行を繰り返した結果、私たちと韓国の人々との間に幾十、幾百もの友情の絆が結ばれてきました。

3月20日の“創立10年を祝う会”の際にも、かつて私たちの会と親しんだ韓国の若者たちが、ソウルや島根県など今の職場から、真心のこもったメッセージを寄せてくれました。その上、かつて学生交流団の1人として来名した

ことのある光州の女性が、当時のホスト夫妻（会員）と手を携えてパーティに出席し、流暢な日本語で挨拶し、やんやの喝采を浴びる一幕もありました。

10年前誕生した無名の会が、ささやかとは言え、このような一定の実りを上げることが出来たのは、会員の皆さん、ひとりひとりの粘り強い貢献があったからこそと言えるでしょう。事務局一同、心から感謝を申し上げます。

また、無名の団体の想いを真正面から受け止め、名古屋韓国学校の教室を自由に使わせていただいた名古屋韓国学校の名誉理事長鄭煥麒さん、張永植理事長、尹大辰校長の皆さんのご好意には、お礼の言葉もないほど感激しています。

かくして、10年は過ぎ去りました。私たちの会が次なる10年にどのような展望を持てるのか考えなければなりません。この問題を考える前提として事務局メンバーの頭を悩ませる事実が一つありました。それは率直に言えば、事務局態勢の高齢化という問題です。事務局を構成している中心的なメンバーの大半は、創立時からの顔ぶれで、10年の年齢を重ねた現在、

1人1人が健康や家庭、仕事などに様々な手帳（てかせ）足枷（あしかせ）をかかえるようになってきました。明日、早々にも会の足元が揺らぐという事態が起きても不思議ではない状況が近づいています。しかし、事務局一同はテンポは緩めても、交流の道をさらに歩むことを決め、3月20日の総会で次のような方針を訴えました。

“日韓市民ネット”のこれからの方針

- (1) 日韓市民・学生の交流による相互理解の推進という基本姿勢は堅持する
- (2) 韓国からの学生交流団の受け入れについては可能な限り継続する
- (3) 留学生との交流については、留学生団体の意向にできる限り応える
- (4) 在日団体、韓国総領事館等との文化交流事業には極力参加する
- (5) 2000年にのぼる日韓交流史の事実を、座講と現地への踏査旅行で解明し、韓国への関心の扉を、より大きく開くような文化講座の開設を検討する

以上のうち(1)から(4)までは、これまでの路線を継承しつつも、無理のない範囲で活動することを語っています。注目していただきたいのは、最後に掲げた(5)の項目です。

この講座は、韓国への関心の一層の広がりや深化とを狙うもので、会員以外にも門戸を開放します。そして、これらの人たちが日韓両国の歴史的な強い繋がりに目覚め、韓国の人や文化の魅力に、大きな関心を持ち始めるよう期待するものです。講座の実施にあたっては、私たち

が過去10年、韓国と日本の双方で培ってきた歴史学者、考古学者などの人脈が生きてくるでしょう。2000年にもわたる交流の歴史が生んだ多彩な人間ロマンもこの講座を盛り上げることになるはずです。

この文化講座の実施には、まだかなりの準備期間が必要ですが、発足の暁には、会員の皆さん、ぜひお友だちを誘って参加されるよう今からお願いしておきます。



このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

◎ 水崎翁の70回忌 盛大に挙行 ～ 韓国・大邱市 寿城池 ～

4月10日(水)の朝、韓国・大邱市の寿城池のほとりで、大邱農民の恩人として称えられてきた水崎林太郎翁の70回忌が、現地の市民や日本の関係者など、およそ70人が出席し盛大に行われました。

水崎翁は明治元年(1868年)、岐阜県に生まれ、今の岐阜市にあたる加納町の町長をつとめた後、大正4年(1915年)、大望を抱いて日本の植民地だった朝鮮の大邱に渡りました。彼は、その大邱の農民が農業用水の絶対的な不足を嘆いていることを知るや、慶尚道の知事や朝鮮総督府を相手に、命がけで貯水池の必要性を訴えていきます。そして総督府から現在の日本円にして13～14億円もの建設資金を引き出し、10年がかりの大工事の末、ついに昭和8年に巨大な農業用水池…寿城池を完成させるのです。

池の水によって周辺には実に250万坪を越える水田が拓かれ、水崎林太郎は「大邱農民の恩人」とうたわれるようになりました。

水崎翁は昭和14年(1939年)に「自分の墓は寿城池のほとりに造るように！」と遺言し、72歳でこの世を去りました。その後、日本が太平洋戦争で破れた結果、翁の家族は日本に引き揚げていきましたが、寿城池の墓地は、彼の功績を忘れない現地の人々の手で守り通され、追慕祭が節目ごとに行われてきたのです。

今回の70回忌には、日本側からは岐阜県や東京都に住む水崎翁の子孫7人をはじめ、釜山の日本総領事や交流団体の関係者など、20人以上が参加しました。一方韓国側からは水崎翁と深いよしみを持っていた徐一族の当主、徐彰教さん(韓日親善交流会長)をはじめ、呉在熙元駐日韓国大使や大邱市、寿城区の関係者、茶

道や大学の関係者など50人が列席しました。

式典では、まず参加者が水崎翁の墓前にひとり、ひとり白い花を供えましたが、芸術大学の学生たちのフルートの演奏で“さくらさくら”や“荒城の月”のメロディが流れ、子孫の人たちは目を潤ませていました。

※70回忌の様子はNHKソウル支局が取材し、翌11日の朝の総合テレビやBS放送のニュースで紹介されました。

★70回忌余聞

今回の70回忌に際して大活躍した小さな小さな外交官のエピソードです。彼の名は小野陽平くん（3歳）です。岐阜市に住む彼の母、小野裕美さんが水崎翁の曾孫（ひまご）にあたるので、陽平くんは玄孫（やしやご）ということになります。

この陽平くん、実は2年前の追慕祭の時にも、わずか1歳ながら参加していたので、3歳にして堂々2回目の韓国訪問を実現したことになりますが、旅行中、韓国の皆さんから大変、可愛がられました。なにしろ全く、ものおじしない性格で、どこに行っても家の中 狭しと走り回り、だれかれとなく声をかけます。レストランに入るごとに従業員のお姉さんやお婆さんが「こんな元気な日本の子ども見たことがない！」と相好をくずし対話が始まります。陽平くんは、お姉さんたちの言葉が自分の言葉と違

その後、読経や関係者の挨拶を経て、最後に無形文化財に指定されているパンソリ奏者によって、亡き人の靈魂を慰めるという特別のパンソリが奉納され、70回忌は深い印象を残して幕を閉じました。

うことをすぐ理解し、自分にとって必要な韓国語をすぐ覚えてしまいました。

例えば水を飲みたくなったら「水はムル」「下さいはチュセヨ」と覚えて「ムル チュセヨ！」と言いに行きます。お姉さんや韓国人の客から年齢を聞かれた時は、私たちの席に戻ってきて「3歳はなんと言うの？」と聞きます。教えると走って行って「セーサル！」と元気に伝えます。3歳の幼児の天衣無縫な言動に韓国の皆さんは大喜びです。70回忌の関係者たちにも頭を撫でられたり、抱き上げられたりと小さな外交官の面目躍如でした。

私たちは、彼の両親と「陽平くんが、これからも、こんな調子でスクスク育って、やがて韓国の若者たちとつきあうようになってくれば、林太郎さんも本望だろうね」と話しあったものでした。





◇ 会の活動報告とお知らせ

1.報告

1) 第11回総会と創立10年を祝う会を実施しました。

事務局通信でも触れた通り、3月20日（祝）に第11回総会を名古屋韓国学校で行い、終了後名古屋駅東の琥珀会館のイタリア料理店で“創立10年を祝う会”を実施しました。総会には33人、祝う会には52人が出席しました。

ここでは総会に提出した資料を全て掲載しません。この中に“創立から10年の歩み”の一覧表がありますが。表を見て皆さん一人一人の活動の軌跡を確かめておいてください。



1. 2007年度 実施行事

月	日	曜日	行 事	人数	備 考
4	8	日	第二期 豊山町・ハングル教室開設		講師 荒木巳威子
			※毎月第二第四日曜日に実施		世話役 市川
4	28	土	会報 37 号発行	7	担当 早川・鈴木
4	30	祝	シニア望郷の集い	15	
5	23～	水	高麗大・学生訪問団 13 名受け入れ	60	協力 ～東大寺・法隆寺
	28	月	～ 奈良・京都見学とホームステイ ～ 及び交流の夕べ (27 日実施)		〃 ～京大教養学部
7	8	日	留学生奈良紀行	22	
8	26	土	会報 38 号発行	8	担当 早川・鈴木
10	27	土	日韓・大自然のつどい ～犬山・八曾自然林～	50	留学生・会員会顧問ら
11	10	土	会報 39 号発行 (通知版)	7	担当 早川・鈴木
12	7～	金	百済再発見紀行	22	案内 李タウン教授
	10	月	～ 益山・扶余・ソウル ～		〃 武井一氏
12	16	日	日韓交流の夕べ ～韓国学校～	80	留学生・会関係者
2	9	土	会報 40 号発行	7	担当 早川・鈴木
3	20	祝	第 11 回総会及び創立 10 年を祝う会	(50)	名古屋韓国学校

2. 2007年度 会計報告

2007年度会計報告書

2007年4月1日～2008年3月31日

前年度繰越金 ￥528,990
 今年度収入額 ￥751,236
 今年度支出額 ￥747,793

次年度繰越金	￥532,433
内訳 郵便貯金	500,000
現金	32,433

収入の部		支出の部		05—07年平均
①今年度会費	369,000	①通信費	155,110	159,817
¥4,000×90名		会報・案内・資料寄付	143,110	147,817
¥2,000×3名		事務局電話代	12,000	12,000
¥3,000×1名		②印刷・コピー費	45,683	43,972
②その他の収入	381,340	③事務用消耗品費	43,100	36,697
会費お振込時の寄付		④日韓交流関係費	153,650	181,021
35,000		⑤ホームページ運用費	52,940	52,960
5/27 高麗大訪問団寄付残金		⑥会議・会場費	10,040	11,005
136,565		⑦協力者謝礼	94,728	101,142
12/16 交流会寄付残金		⑧交通費・下見費用	99,407	67,629
209,775		⑨雑費・手数料	93,135	48,649
③受取利息	896			
計	751,236	計	747,793	702,892

※ 会費や寄付金等のお振込の際の郵便振替口座は 入金があり次第、即現金化をしておりますので、この報告書では全て現金勘定扱いとして記載し、郵便振替口座収支の報告は省略させていただきます。

3. 2008年度 体制

顧問団	名誉顧問	鄭 煥 麒
	〃	横内 恭
	〃	伊藤秋男
	代表顧問	石原俊洋
	顧問	尹 大 辰
	顧問	李 尚 勳

幹事団	統括幹事	後藤 和晃
	副統轄幹事	中川 修介
	幹事	伊藤みつ子
	幹事	鈴木 一字
	幹事	須田奈保美

事務局	事務局長	後藤 和晃
	事務局次長	中川 修介
	事務局次長	東 道 生
	渉外主幹	鈴木幸之助
	広報主幹	鈴木 一字
	事業主幹	小出 宣明
	会計主幹	伊藤みつ子
	副会計主幹	岩下 洋子
	事務局(広報)	早川 潤
	事務局補佐	鈴木奈津子
	事務局補佐	竹中志保美
	事務局	武田 章敬

交流リレー大会	徐 彰 教	韓国での交流
	坂野 慎治	ソウルでの交流
	武井 一	日韓交流史
	宮本 昌子	日本語指導
	荒木巳威子	韓国語指導
	加藤 勝	囲碁交流
	伊藤 義郎	歴史・考古
	土岐 良文	歴史・考古
	三尾 和廣	森で遊ぶ
	土本美恵子	
	田口 良浩	ハイキング
	長澤 進	日本古典音楽
野村 哲	アジア全般	

せわやきグループ	増田 一男	堀 芳樹
	鶴飼 満	山田あき子
	梅田 徹	山田 雅樹
	市川 延江	イ・ジョンベ
	石川 総子	

監査	会計監査	成瀬 一男
----	------	-------

4. 2008年度 行事計画

会の活動の今後に係わる基本方針

- (1) 「日韓の市民・学生の交流を通して相互理解をすすめる」という会の基本方針はこれまで通り堅持する。
- (2) 今後も、会が継続的に活動できることを主眼に年間行事を選択し実施する。
- (3) 10年間で培った力と人脈をもとに、「日韓の2000年に及ぶ交流の歴史」を、一般の人々に、より理解してもらえるような企画を実施するよう努力する。

2008年度の行事計画

- (1) 4月9日(水)～11日(金) 水崎林太郎翁70回忌に参加
～ 韓国大邱市・寿城池 ～
- (2) 4月26日(土) 会報41号の発行
- (3) 4月29日(祝) シニア望郷の集い
- (4) 5月12日(月) “古代史の巨人・蘇我氏の真実”探求紀行
～ 奈良県・明日香村 ～
- (5) 7月31日(木)～8月4日(月) 光州学生交流団の受け入れ
日程は変更もありうる ～ 奈良旅行とホームステイ ～
- (6) 9月13日(土) 会報42号発行

- ※ 年度後半の行事は、会員等の声をもとに企画・実施
- ※ 留学生関連は別途検討中

2) 創立から10年の歩み

(1) 創立 1998年2月

※当初の参加者30人・・・現在の会員数120人

(2) 韓国各都市・団体と大学生交流団の交換

1998年7月	大田から大学生交流団を受け入れ
1999年2月	大邱から大学生交流団を受け入れ
2000年2月, 8月	光州と大学生交流団の交換
2001年2月, 8月	大邱と大学生交流団の交換
2002年2月, 8月	光州と大学生交流団の交換
2003年8月	大邱から大学生交流団を受け入れ
2004年2月, 8月	光州と大学生交流団の交換
2006年2月, 8月	光州と大学生交流団の交換
2007年5月	ソウル高麗大交流団を受け入れ
2008年8月	光州から大学生交流団受け入れ予定

(3) 名古屋の韓国人留学生(含朝鮮族学生)との交流

- 1998年～ 例年 秋に日帰り ないし1泊キャンプ
- 1998年～ 例年 12月下旬に“留学生を励ます交流の夕べ”を韓国学校で実施
- 1998年～ 随時、会員宅での1泊ホームステイを実施

(4) 日韓交流史を深く学ぶ紀行 (会員対象)

国外

2000年	懐かしの百濟紀行
2002年	ソウルに見る日本統治の痕跡
2003年	懐かしの伽耶、新羅紀行
2004年	黒潮の三多島紀行(4・3の悲劇)
2005年	韓の国、仏が来た道紀行(靈光～ソウル)
2006年	高句麗の栄光紀行(中国東北部)
2007年	百濟再発見紀行

国内

2001年	明日香・奈良紀行(百濟王の末裔と対面)
2004年	明日香再発見紀行(考古学者と歩く)
2005年	尹奉吉義士への旅(金沢)
2006年	渡来人の足跡をたどる(関東各地)
2008年	古代史の巨人蘇我氏の真実探究紀行(5月予定)

(5) 韓国大邱市民の水崎林太郎翁追慕・顕彰事業に協力

～会発足当時から継続～

(6) 会報の発行

年4回 2008年3月までに40号を継続発行

- (7) ホームページの運用
会の活動の状況をPRするため、ホームページ運用

アドレス: <http://www.nikkannet.jp/>

- (8) 在日団体や他団体と韓日歴史・文化フォーラムを企画、実施
韓日歴史・文化フォーラムは2001年より在名古屋韓国総領事館を舞台に
3年継続した韓日歴史座談会の後身として2004年より続いている。
このフォーラムを運用、実施する幹事に会事務局の後藤和晃が就任、
毎回多数の会員が参加している。

- (9) 多様な交流を極力支援
会員や非会員の多彩な日韓交流行事を極力支援している。

- (例) ○高校生の日韓交流支援
○幼稚園児 " (岐阜かぐや幼稚園)
○囲碁少年少女の交流支援

等々

以上

2. お知らせ

1) “古代史の巨人蘇我氏の真実”探究紀行を行います

日 時 5月12日(月)
※朝7時半JR名古屋駅コンコース西端集合
行 先 奈良県明日香村
講 師 猪熊兼勝 橘女子大名誉教授
参加費 7,000円(現地参加4,000円)
参加希望者 後藤(0586-56-6788まで連絡下さい)



2) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、4月17日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

目黒 博	久保 弘子
------	-------

회원 마당

会員の広場

◎ 韓国の『時調文学』が日本の短歌を紹介

会 員：瀬尾文子（時調研究家・水鏡同人）

韓国から春風にのり「時調文学」（キム・ジュン主幹）が届きました。嬉しいことに、その中に時調12詩人として著名な朴鐘大（パク・チョンデ）氏が「私の現代日本定型詩ノート2005～2007」と題して日本の短歌を取り上げていました。韓国の詩人が日本の定型詩に示した深い洞察力と共感に感激して、一部（啄木1首、他3首は現代歌人）を翻訳し紹介します。

『時調文学（사조문학）』2008年 春号

（韓国、現代時調誌のトップ誌。主幹 キム・ジュン）
私の現代日本定型詩ノート 2005～2007

（時調詩人）박종대（朴鐘大 パク・チョンデ）

(1) 翻訳 사람들이 다
 같은 방향을 향하여 가고 있다.
 그것을 옆에서 보고 있는 마음.

原歌 人がみな
 同じ方向に向いて行く。
 それを横より見ている心。

－イシカワ タクボク 石川啄木（1886～1912）
歌集『一握の砂』『悲しき玩具』など。



この作品を前にして、作者の大衆発見の歌から、大衆に近づけない作者の苦悩をのぞき見ることができる。人間らのみならず、更に進んで、一方向に寄り集まってゆく魚の群れ、道程を行く動物の群れ、そして飛ぶ動物の群れが思い出されないか。短歌もわが国の時調のように、一つの系統として使われ、今でも凡そ一つの系統として使っているが、作者は早くから、このように5句の構成を、内容に従って、3行にわけて書き記した。句読点も作者が使った通りである。近代以後の、近100年間、この作者のような大衆性を備えた歌人は、居なくなったという。

(2) 翻訳 청자 항아리 한쪽 귀 언저리에 자리를 잡고 있었구나
 피눈물과 같은 불방울이

原歌 青磁壺の片耳の辺にとどまれり からき泪のごとき滴の
 －カスガ マキコ 春日真木子（1926～）
 歌集『野菜涅槃図』『火中蓮』など

○ 食の安全

韓国ソウル市在住 会員 坂野慎治

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

日本でも「ギョーザ中毒事件」など食の安全が問題になっていますが、韓国でも今、食の安全が大きな社会問題になっています。韓国の食料自給率は28%と、日本の39%よりも低いので、たくさんの食品が輸入されています。もちろん輸入食品だから危険、国内生産だから安全というわけではありませんが、最近、食品による事故が増えています。

例えば、ツナの缶詰に刃物が入っていたり、スナック菓子にネズミと思われる異物が入っていた事故が、大々的に報道されました。しかも、調査をしても原因は分からず仕舞いで、消費者は不安を募らせています。

こうした事故が多発した後、パンにミミズが入っていたという報道もありました。しかし、その詳細を見てみると、何だかおかしい点があります。焼き上げられたパンに入っていたというミミズが、土から出てきたばかりのような姿なのです。この通報者は結局、袋を開けた後にミミズが入ったのかもしれないと訂正しましたが、製パン会社に500万円あまりを要求したとして警察の取り調べを受けています。

こうした不徳な輩が現れたのも、食に対する不安が高まっている証拠でしょう。そのため、安心して食べられるものを自分で作ろうという動きが広まっています。以前からヨーグルトや清麴醬（日本の納豆に相

当）を作るための発酵器はよく見かけましたが、最近では製パン機、炭酸飲料を作るための炭酸水製造器（ソーダサイフォン）もよく売れているそうです。

このように自分で食べるものは自分で作ることで、食の安全だけでなく、食の楽しさにも目を向けることができるかもしれません。食品による事故が起きたからといって一過性の騒動で終わらせずに、食料自給率や食育など根本的な問題も解決していく努力が必要ではないかと思います。



編集後記

(2008/4/19)

会報 No. 41 をお届けします。桜の花が散り、新緑の季節となってきました。皆さんお元気でしょうか？

さて、今回の会報を読んでいただくと、「10年」という文字が賑わっています。私自身は会の創立時にはいなかったのですが、1つのきっかけで発足した会がここまで来たのはすごいことだと思います。10年間、少しずつ背伸びしながら歩んで来た会です。創立時からいる会員の方々・協力者の方々、また最近入会された方々もそれぞれの思いや期待をもってこの会に携わっていることでしょう。そして、これからは皆さんの協力・支援を受け、一歩ずつ進んでいくことでしょう。

池貴巳子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1997 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤
 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp